NIE実践報告

1．タイトル：人間万事塞翁が馬

2．学校名

和歌山県立紀央館高等学校

3．実践者名（代表者名）

栗山昌子

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

古典「新編古典」東京書籍・漢文編・33人

6．単元（本時の学習課題）名

漢文編（寓話）『淮南子』塞翁馬

7．目標(狙い)

人間や政治についての、古代中国の様々な考え方を読み取る。寓話を通して、ものの見方や考え方を深める。

8．評価の視点

春秋戦国時代を背景として盛行したものであり、そこより生まれた故事成語は、我々の生活の中にも幅広い分野で根付いており、現代にも通ずる点まで理解できているか、否かに注目する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

漢文学習の中期に学習する。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

2時間で仕上げる教材で、本時は2限目のまとめにおいて使用する。本文の理解を通じて、それぞれの出来事に対する「善術者」と「人々」の言動から「禍福」に対する考え方を理解することにおいての学習である。故事成語そのものが、現代においてどのように使用されているのかを知るため、タイムリーに現在の出来事とともにその使用状況を生徒に伝えることができた。（タイミング良く新聞紙上での使用があったことにおいて授業へ投げ込めた。）内容が、偏った記事の場合、授業での使用に注意が必要と考える。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

より身近な内容であり、学習時のタイミングと新聞内容とがピッタリであったため、より興味が湧いたようであり、新聞記事がたいへん有効に利用できた。

12．成果と課題

常に、授業や生徒が興味を持てそうな記事のストックが必要であり、この記事はタイミング良く新聞で見つけることができたが、次の単元に入った後であると、授業での使用鮮度が落ちてしまう。やはり教師の新聞を読む時間の確保と、複数の新聞が配達される「幸福」があればこそである。